2018年1月31日発行

関東学院大学　キリスト教と文化研究所

ニュースレター No.42

News Letter

INSTITUTE FOR THE STUDY OF CHRISTIANITY AND CULTURE, Kanto Gakuin University

所長巻頭言

キリスト教と文化研究所所長　細谷 早里

前任の村椿真理先生の後を受け継ぎ、4月より所長に就任いたしました細谷早里です。キリスト教と文化研究所は1949年に発足したキリスト教研究所、1957年に発足した日本プロテスタント史研究所を前身とし、2001年に発足しました。この16年の間に当初９人のみだった所員も現在は14人となり、研究員、学外の客員研究員も抱え、56人の研究者が関わる研究所と成長してきました。それまでの研究所と大きく異なる点は、キリスト教の研究のみならずその文化、そして諸学問、科学をキリスト教の視点・切り口で研究する機関へと変化してきたことです。キリスト教が単に研究の対象となっているだけではなく、キリスト教的価値観をベースにおいて研究する、あるいはキリスト教を通して物事を見るといった方法論として用いられるようになってきたと言っても良いでしょう。今年度は、バプテスト研究、新約研究、キリスト教と日本の精神風土研究、ヘブライズム研究、坂田祐研究、いのちを考える研究、奉仕・ボランティア教育研究の7つのグループが活動を行っています。価値観が多様化し、問題が複雑化している現代において、キリスト教を通して物事を捉え、解決策を探るという研究は意味があると思います。総合大学として、キリスト教を基盤とする大学としての関東学院大学がこのような学際的研究を進めていくことは、研究の場としてあるべきひとつの形かもしれません。

年月を経てそれぞれの研究は深まっていきますが、さらに多くの方々が関わり、新しい研究が立ち上げられる必要もあるでしょう。これまでの研究の成果を社会に還元していく方法や場も広げる必要があります。また、このような学際的な研究機関がこの大学に集う学生たちに貢献できる方法も考えていきたいと思います。

所員のみなさんのお力を借りながら、この研究所がますます発展できるように、微力ではありますが努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

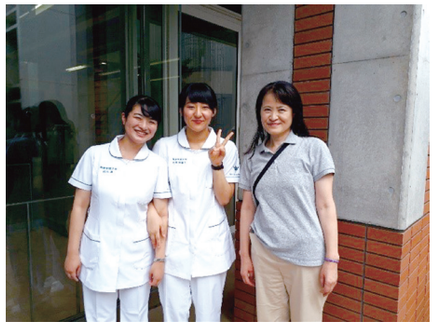
所員紹介

看護学部　中村 貴子所員

今年度、キリスト教と文化研究所の所員になった看護学部の中村貴子です。今までキリスト教と関わることがほとんどありませんでした。このたび所報編集委員として研究グループのそれぞれの活動を知り、編集作業を通じてキリスト教について知ることができればと楽しみにしています。

2013年度に開設された看護学部の教育に携わっています。看護学は実践の科学といわれ、病院や地域の現場での学習（実習）が他学部に比べて多くあります。私自身も看護の実践者でありたいと思い、実習では患者や高齢者の方々によいケアを提供できるよう学生たちと悩みながら日々過ごしています。

看護学部では毎年5月中旬の土曜日に派遣式を行っています。本格的な実習に臨む前の3年生に学院宗教主任の松田和憲先生より校訓「人になれ　奉仕せよ」に基づく講義をしていただきます。その後、自分たちの言葉で校訓を看護実践に具現化した宣誓をするセレモニーです。今年はキャンドルサービスも企画し、厳かな雰囲気のなかでの素敵な派遣式でした。看護学部以外の関東学院の関係者の方にも観ていただけることをうれしく思い、この紙面をお借りして宣伝させていただきます。



＊2018年度は5月12日（土）に派遣式を開催します。

（写真：実習を終了した学生たちと一緒の中村所員）

建築・環境学部　中和 渚所員

建築・環境学部の共通科目教室所属の中和渚です。専門分野は数学教育と国際教育開発、国際協力です。建築・環境学部と理工学部の数学に関わる講義を担当しております。研究のフィールド地はザンビア共和国（以下、ザンビア）、ネパール、東ティモールなどの開発途上国です。ここ数年は日本の小学校や幼稚園においても研究を実施しております。

私の両親がカトリックを信仰していたため、生まれながらのクリスチャンで、クリスチャンネームはアンナを頂いています。幼児洗礼を受け、子供の頃は毎週日曜日教会に通っておりました。

2005年から2年間、南部アフリカのザンビアに青年海外協力隊として派遣され、数学教師を行っておりましたが、ザンビアは国民の9割がクリスチャンですので、私も友人と現地の教会によく行っていました。ザンビアの教会は現地化されており、カトリック教会では振り付けが付いている歌や踊り、太鼓などを用いたミサが行われており、とても興味深いものがあります。ザンビアの人々は非常に信仰心が深く、子供も聖書を持参して、週末は聖書の勉強や教会の集まりにも積極的に参加しています。研究所の所員として、ザンビアのキリスト教や人々の信仰や考えなど、これから研究してみたいと考えております。

（写真：中和所員のフィールドワーク風景・子どもたちと）

関東学院大学　キリスト教と文化研究所

〒236-8501横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL：０４５－７８６－７８７３（研究所直通・月～金９：30～17：00）
FAX：０４５－７８６－７８０６（研究所直通・24時間受け付）

発行者：細谷　早里
Director：Sari Hosoya

バプテスト共同研究　最近の歩み

あたらしい葡萄酒はあたらしい革袋に

法学部教授　村椿　真理

関東学院大学は、その誕生の経緯からしてバプテストの伝統に立つ大学であった。本学の「三つの源流」を尋ねてみれば自ずとその意味が分かるのであるが、前身校の東京学院に一九一八年「日本バプテスト神学校」が訳あって合併され、高等学部にならぶ神学部を持ったところなどにその特徴が如実に示されていた。この東京学院は一九二七年に財団法人関東学院に移管、完全統合されたわけだが、その時点の関東学院には、従って神学部、高等学部（社会事業科、商科）、中等部が併設されていたのである。

しかし創立一三三年の歳月を経る中で、今日、本学がバプテストの伝統に立つ大学であるといった自覚や認識は、ほとんど存在していないように思われる。

バプテストの伝統に立つ大学とは、本学がアメリカ・北部バプテスト教会の支援を受けて創設された大学であったという事実に基づく。それは単なる経済的支援だけでなく、大学形成に携わった米国バプテストのミッションボードの姿勢、教育理念、また日本に形成されたバプテスト東部組合などの祈りと協力、多くのバプテストの人的・物質的支援を得て建てられた教育機関であったことに由来するのである。

関東学院大学神学部が存在した時分、神学部では当然のこととしていわゆるキリスト教神学の基礎的教科である聖書学（旧新約聖書学）、聖書神学（旧新約聖書神学）、教義学（組織神学、キリスト教倫理学）、歴史神学（キリスト教史、教会史、教理史）、実践神学、聖書言語学（ヘブライ語、ギリシア語、原典講読）等の他に　バプテスト史、バプテスト主義神学などを中心とする自派教会形成論に相当する講義が開講され、バプテスト信仰思想、バプテスト歴史研究が日常的に営まれ発信されていたのであった。

しかし大学紛争期、神学部廃部の憂き目をみた後は、本学におけるバプテスト神学研究は停滞を余儀なくされ、ごく一部の元神学部教員やその後の大学宗教主事教員らの手により担われてきたのであり、その学術的取り組み（内容と質）は極めて高度ではあったものの、牛歩の歩みであったと指摘せざるを得ない。

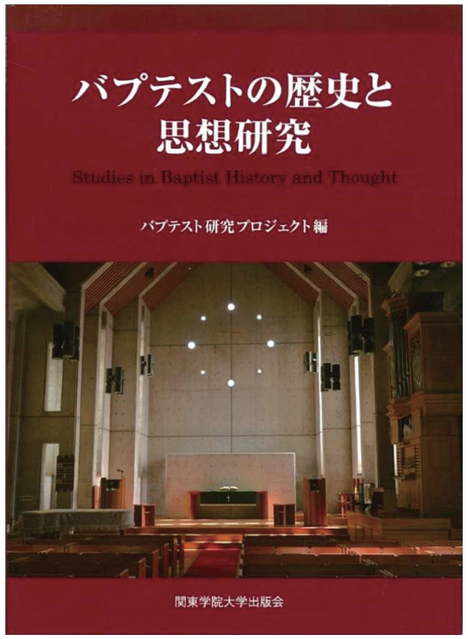
今日バプテストの伝統に立つ高等教育機関は、日本においては関東学院大学の他数校が数えられるが、その中でバプテスト研究を僅かではあっても継続させてきた大学は関東学院大学の他は福岡の西南学院大学しかないといって過言ではない。両大学は日本のバプテスト研究においてやはり特別な使命と責任を負っているのかもしれない。

わたしたちのバプテスト共同研究グループは二〇〇四年に設置されて今年で十三年目を迎えるが、これまでに西南学院大学のバプテスト研究者たちと共同作業を行い、「バプテスト通史」を企画し、協力して出版したこともある。しかしわたしたちとてこの時代のリリーフ研究者に過ぎない。今これまでの歩みを反省すると共に、学外研究者との共同研究、また本学における研究活動の継承もしっかりと行い、次代へバトンをつながなければならない。

本研究グループは二〇一六年度、新しい企画として『バプテストの歴史と思想研究』なる論文集刊行を決議し、初刊号を本年六月に大学出版会より上梓した。これまでの「研究叢書」の形では出版費がかさみ、ほぼ四年に一度のペースでしか発行できなかったのである。しかし今回企画の論文集は出版費も低く抑えられ、また定価も低く設定できることから、毎年の出版も可能となる。いつも指摘することであるが、こうした論文集の定期的発行は研究者自身の意識を覚醒し、研究意欲をかきたてることにつながる。新しい研究者も加わり、まさに「あたらしい葡萄酒にはあたらしい革袋」が必要なのである。

同誌第二号は、今年度末に出版予定で、目下編集が進められている。願わくはこうした論文集が多くの人々の手にわたり、本学ならではのバプテスト研究が、初めに書いた本学のキリスト教的伝統であったバプテストとは何か、歴史の中でバプテストがどのような貢献を果たしてきたのか、またバプテスト信仰思想に基づく教育の基本的理念とはいかなるものであったかなど、理解を深める一助となるならば幸いである。

そしてかつて、バプテストが英米の歴史の中で果たしたように、現代社会の諸問題の解決に、伝統に根ざした貢献をこれからもなし得るということを広く伝えていくものでありたい。バプテストの伝統に立つ大学であるという事柄の意味することは何か、そのことを何より明らかにしていく使命が実はこのグループにはあるのである。



（定価 1、400円　丸善株式会社発売 本学購買部で購入可）